

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000283		
法人名	株式会社 道央ケアセンター		
事業所名	グループホームつつじ		
所在地	小樽市朝里川温泉2丁目694-13		
自己評価作成日	平成23年2月22日	評価結果市町村受理日	平成23年4月8日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は自然豊かな環境に囲まれており、家庭的な雰囲気の中で入居者が安心して暮らせるように努めています。入居者一人ひとりが持っている能力を引き出し、その方にあった自立した生活を楽しめるようにお手伝いをしています。地域の方々の協力を得ながら、地域との交流を深め、地域に密着したグループホーム作りを目指し取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigooho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172000283&amp;SCD=320">http://system.kaigooho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172000283&amp;SCD=320</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年3月11日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の持てる力を維持継続できるよう、生活がリハビリという考え方で、出来ることは自立して行うよう生活支援しています。午前中は軽い体操や簡単な計算、漢字の書き取りなど、生活を工夫しています。地域との交流も活発で、子供会と合同で、七夕まつりやクリスマス会、雪灯りのオブジェ作りなどしたり、小学校の運動会や学習発表会などに参加したりと、生活に変化があります。運営法人は職員を育てることに積極的で、内部、外部研修等に参加を促し、働きながら資格取得するよう勧めています。職員を育てることで、ケアサービスの質向上を目指しています。職員間のチームワークも良く、コミュニケーションがとれており、利用者には温かく接し、よく気がつくと家族からも信頼が寄せられています。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作っています。社内研修で定期的に勉強したり、フロアや休憩室などに掲示し、職員がいつでも運営理念を確認できるようにしています。	社内研修等で周知し、また各フロアに掲示されており、職員全員が共有し、ケアサービスを行う上での考え方、行動の基本としています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の子供会と合同で『七夕まつり』『クリスマス会』『雪あかりのオブジェ作り』などを行なっています。また、近くの小学校の運動会や学習発表会に参加させて頂いています。	温泉街とは離れており、町内会とはあまり交流がありませんが、地域の子供会や、ボランティアのお茶会、小学校との交流が活発に行われ、行事等の相互参加があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症の勉強会を行ないました。また、地域交流の際には、入居者との接し方や支援方法などを説明し、認知症について正しく理解していただけるように努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、自己評価や外部評価について確認する時間を作り、改善に向けた取り組みを伝えています。また、毎回意見交換を行い、そこで出た意見について社内にて検討しています。	地域の子供会との交流も民生委員の方の提案から始まるなど、運営会議では地域連携、感染症、評価、火災など、幅広い内容を審議し、サービス向上に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市で開催する勉強会やグループホーム協議会には、積極的に参加しています。また、日頃から何か困ったことがあった場合は、すぐに介護保険課に相談するようにしています。	市主催の勉強会など積極的に参加し、普段よりホーム運営等について、相談やアドバイスをいただいたり、情報収集に努めるなど、協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	『身体拘束廃止推進委員会』や社内研修により、身体拘束となる行為について学習しています。危険防止の観点から、『身体拘束廃止推進委員会』で検討を行った上で、現在は玄関の施錠を行なっています。	社内研修等を通し、職員は身体拘束をしないケアの重要性を認識しています。昨年、帰宅願望の強い方の外出があり、委員会で検討し、玄関の施錠をしていましたが、見守りを強化することで、3月から昼間はオープンにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会があれば交代でできるだけ参加しています。定期的に社内研修を行い、職員全員が学ぶことができるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度については管理者研修などで学ぶ機会を得ています。また、社内研修で取り上げ、職員間で話し合いをしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、入居者や家族に十分に説明を行っています。契約後も不安や疑問点がないか随時確認を行い、入居者や家族と話し合う機会を作っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話の際に、意見や苦情、不安に思っていることを伺うようにしています。家族と相談しながら、色々な問題を解決できるように努め、日々の生活に活かしています。	利用者からは日々の様子や話から、家族とは電話や面会時、介護計画説明時など利用し、要望や不安なことなど聴取し、運営に反映するよう努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にフロア会議を開催し、職員の意見を聞く機会を設けています。管理者が意見を取りまとめ、社内の全体会議等で話し合いを行なうことで、よりよいホーム運営を目指しています。	フロア会議、申し送り時など、職員の意見を聴取する機会を設けています。レクリエーション、新聞、食材担当など各委員会があり、そこの提案を運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員に対し積極的に声かけを行い、職員の実績や勤務状況などを把握する様子をしています。また、職員が前向きに働ける職場環境づくりを行なっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力、経験に応じて社外研修に参加する機会を設けています。また、職員が資格取得を目指すよう、声かけをしたり、有資格者が勉強会を開いたりする支援を行なっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム協議会に参加し、交流する機会を得ています。同業者と相互訪問研修を行い、他社の運営方法やサービスについて学ぶことで、サービスの向上を図っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居判定前に必ず入居希望者と面談を行い、本人の意見や意向を伺い、状況の把握や不安の軽減に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時から、入居者や家族の問題や希望を傾聴することで、サービス開始時の不安の軽減を図っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、入居者や家族の話を傾聴し、ホーム入所が問題解決につながらない場合は、話し合いの中で他サービスへの紹介等も行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の好きなことや得意なことを把握し、職員が教えてもらったり、手伝ってもらおう機会を作って、入居者と支えあう関係を築いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者に関する事は、何でも家族に相談し、一緒に考えるようにしています。職員と家族が意見を出し合うことで、より入居者にあったサービスを選択するようにしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友達・知人との面会や、ホーム入居前からの病院の受診などを重視し、可能な限り入居後も継続できるよう工夫しています。	友人、知人との面会、電話や手紙、美容室、病院など、馴染みの方や場所の関係継続を支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の生活観を尊重しながら、同じ趣味を持つ方や性格が合う方などを取り持ち、入居者同士の関わりを作るようにしています。また、相性が良くない入居者同士の衝突を防ぐなどの工夫を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時は、退居後の住まいやサービス利用について確認するようになっています。また、何かあればいつでも相談してくださいと説明しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者から希望や意向をその都度聞くようになっています。また、職員間で話し合い、一人ひとりが習慣や自分の生活を尊重できるように努めています。	生活歴や家族からの情報、利用者とのコミュニケーションを大事に、思いや意向を把握するように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	起床・就寝時刻、食事内容、好き嫌い、趣味などの生活状況を入居前に把握し、サービス提供に活かすようになっています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の言動、バイタル測定値、食事摂取量などの把握を行い、記録を残しています。状態についての申し送りをを行い、職員間で共有しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の意向を念頭に置き、個々の状態、特徴、ニーズを考慮した具体的な介護計画を作成しています。本人、家族、職員が定期的に話し合い、随時サービスの変更を行っています。	計画は日々の記録をもとに、アセスメントやモニタリング等、丁寧に記載し、現状に即した計画を作成しています。3ヵ月毎に見直し、変化時は随時対応しています。	介護計画について、家族への丁寧な説明とコミュニケーションを蜜にする工夫を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者個々の様子は介護記録に記入しています。申し送りや連絡ノートを使用し、情報の共有に努め、情報を基に介護計画の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	美容室の付き添いや、家族が付き添えない場合の通院介助など必要に応じて対応しています。また、家族の宿泊にはゲストルームも用意しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校の行事に参加したり、子供会や幼稚園と合同で行事を行っています。また、歌会やお茶会、指圧などボランティアの協力をいただいています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に、本人・家族と相談し、入居後の主治医を決めていただいています。主治医との連絡体制を密にし、何かあった時はすぐに対応していただけるような関係を築いています。	入居前からの、かかりつけ医受診は、家族または職員対応しています。提携病院での受診も可能で、適切な医療支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	敷地内の事業所に看護職員がおり、入居者の健康管理や職員の相談に対応してくれています。また、入居者がかかっている病院の看護師とは、気軽に相談できる関係を築いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、入居者の状態や経過について情報提供しています。入院中は、定期的に病院関係者や家族と連絡を取り、入居者の病状の把握を行い、早期退院を目指してホームの受け入れ態勢を整えるようにしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期については、入居時に本人や家族と話をしています。状態の悪化が予想される場合は、早い段階で主治医、家族と十分話し合いを行い方針決定しています。	重度化や終末期について、入居時に家族と話し合いをしています。方針と同意書の文書化は取り組み継続中です。	ホームとして出来ること、出来ないことを明確にし、方針と同意書の文書化の準備を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生時に、焦らずに適切な対応ができるように、応急手当の講習などを定期的に行なっています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	敷地内の系列グループホームと連携し、定期的に避難訓練を行なっています。運営推進委員会の地域のメンバーにも声かけを行い、夜間を想定した避難訓練も実施しました。	年2回夜間想定避難訓練を実施しています。運営会議に消防署の出席があり、避難場所の除雪指導を受けています。連絡網、自動火災通知設備など整備しています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、尊敬の念を忘れないように心掛け、言葉かけや対応を行っています。	利用者一人ひとりに尊厳ある対応を心がけ、離職後の守秘義務を義務付け、個人情報等、適切に管理しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の話を傾聴し、したいことを自分で決められるような声かけをするよう工夫しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まった日課はありますが、入居者が気分や体調により、予定通りに行なうことができなくても、無理強いをしないようにしています。入居者の希望やペースに合わせて、対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご希望により美容室にお連れし、髪を染めたり、パーマをかけたりするおしゃれのお手伝いをしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	苦手なメニューを代替したり、食べやすく調理したりすることで楽しく食事ができるように支援しています。準備や後片付けも一緒に行っています。	食材購入、メニュー作成は、運営法人が一括して行い、準備や片付けなど職員と協働しています。行事食や外食など楽しみもあります。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は必ず確認を行なっています。摂取量が少ない時は、声かけをしたり、出し方の工夫をして十分な量が摂れるよう支援しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きをして頂いています。不十分な方には、声かけをしたり仕上げ磨きをすることで清潔が保てるようにしています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声かけや誘導をすることで、トイレで排泄ができるように支援し、失禁による不快感を軽減させられるようにしています。	定期的な声かけや、リハビリパンツ等、利用しながら、排泄の自立を促す支援をしています。居室にトイレがある場合、把握出来ないが、おおむね自立しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や排便状況を把握し、体操や飲み物の工夫を行なっています。便秘の場合は、主治医に相談し、下剤などを処方して頂く場合もあります。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を限定せず、その都度声かけを行い、基本的に週2回以上の入浴をしていただいています。入浴拒否が続く場合は、シャワー浴にするなど個別に対応しています。	利用者の体調を考慮しながら、各自自由な日程で、平均週2回以上入浴しています。入浴を拒む方は、声かけのタイミングを工夫し、入浴するよう促しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量や体調を把握し、安心してゆっくり休むことが出来るよう支援しています。睡眠状態を確認するために、定期的に巡視を行っています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書にて、副作用や用法・用量を把握しています。服用の際は間違いのないよう確認し、服用後の体調等の変化も観察するようにしています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に確認した生活歴や趣味を参考にし、個々にあった楽しみを行なえるよう支援しています。飲み物やお菓子等の嗜好品も個別に提供しています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい時期には散歩に出かけたり、中庭で日光浴を行ないます。また、家族の協力の下で、外食やドライブなどの機会を作ったり、地域のボランティアの方と中庭で行事を行なったりしています。	夏場は、日常的に散歩や日光浴などに出かけています。バスで花見や紅葉狩りなどに出かけたり、家族の協力を得て外食や旅行に出かけ、利用者の希望で、出かけられるよう支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則的には、入居者はお金の管理は行なっていませんが、必要がある場合は、家族と相談の上、小額の現金の所持をしていただいています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	フロアの電話や入居者個人の携帯電話を使用しています。手紙のやり取りのお手伝いもしています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるような飾りを工夫しています。毎日掃除を行い、不快な音や光がないように都度職員が調整しており、快適な環境づくりに努めています。	明るく広々としたリビングでは、利用者がテレビや新聞を見たりして、ゆったりと過ごされています。掃除のチェック表もあり、リビング、浴室、トイレ等、清潔な環境となっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、食堂など自由に使用していただいています。仲間同士でおしゃべりを楽しめたり、居室でゆっくり休めたりと自由に過ごしています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはできるだけ使い馴れた生活用品を持ち込んでいただき、好みに応じて居心地よく生活ができるようにしています。	居室には、すべて作りつけの洋服入れがあり、またトイレ、洗面台が付いた居室もあり、好みの品などを置き、過ごしやすい部屋作りをしています。掃除も行き届いています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活ができるように工夫している	トイレ、洗面所、居室入り口には、入居者が分かりやすいよう表示を行い、迷わずにできるだけ自立した生活ができるよう工夫しています。			